

私の桜の標本木

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年04月05日

桜の季節となりました。今年の3月は例年の4月並み（日によっては5, 6月並み）の暖かさの日があり、全国的に桜の開花が進み、例年に比べると1週間以上早いと言われています。

八潮団地の中には沢山の桜（ソメイヨシノ）の木がありますが、開花から満開までを楽しもうと、今年も「私の標本木」を決めました。

都内の桜（ソメイヨシノ）の標本木は靖国神社にありますが、気象庁の開花宣言が出されたのは3月14日でした。そして、「私の標本木」が開花したのは、3月18日でした。



満開を迎えたのは3月26日でした。



昨年の観察記録を見直してみたところ、今年とほぼ同じ頃、19日に開花を確認しています。

下の写真は昨年観察したものです。



昨年は緊急事態宣言が発出され、投稿をためらいましたので、今回改めて…

令和3年3月31日

環境記者 石田雅子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2021年04月05日

近所の神社前の桜の咲き方がおもしろい

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年04月19日

近所の旗が岡八幡神社の前の道路のソメイヨシノの街路樹が3月23日ごろに満開となり、枝はもちろん、幹にまで咲いていました。

4月5日には枝の花はほとんど散ってしまいましたが、幹からは新しい花芽が出てきて次々と咲き、蕾まで付いていました。

桜の生命力のたくましさに感動し、また面白い現象だと思いました。

近所の神社前の桜の咲き方がおもしろい



旗岡八幡神社

品川区旗の台 3-6-12

令和3年3月23日

21



令和3年4月9日

環境記者 新居崎邦明

カテゴリ：令和3年度

第40回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2021年04月22日

令和3年4月12日(月)、第40回環境記者情報交換会が7名の環境記者のご出席のもと行われました。環境記者の皆さんから投稿された記事について、日ごろの活動の様子、そして興味を持っていらっしゃる環境に関する事柄について、それぞれご報告いただきました。

また、桜の話題、コロナ禍にどう過ごされていたのかも活発にお話いただきました。



真壁さんが、コロナ禍での人間関係で感じたのが、コロナに対する温度差だそうです。ご自分では三密回避はもちろん、マスクを二重にする、外食しないなど、できるだけ感染拡大防止に協力したいと思うものの、そうでない人も少なからずいるということを実感されたそうです。

「花交差点の仲間たち」というボランティアグループで、近隣の歩道の清掃と花壇の整備を行う活動にも参加されています。昨年秋も感染対策をしながら無事に終えることができたそうです。植えた花苗はパンジー、シクラメン、デージー、ノースポール、マーガレット、キンセンカ、ビオラ。こんなすてきなボランティア活動を18年も続けていらっしゃるなんて、すばらしい！継続は力なり！！

*『「花交差点の仲間たち」歩道花壇の植替え』他

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4863>

小野さんは、東京サラヤ株式会社の方で今回、同じ部署の柿森さんと一緒にご出席いただきました。コロナ禍の過ごし方は、仕事では「出前授業」で手指の正しい消毒の仕方を教えてまわり、自宅では紙粘土制作に没頭されていたそうです。

社員の有志のみなさんと年数回、「品川フラワーレンジャー」として聖蹟公園花壇で清掃、整備、花植替えなどの活動もしていらっしゃいます。もう10年以上も続いていて、投稿記事からも有志のみなさんの和気あいあいとした雰囲気伝わってきます。

そして本日参加してくださったゲストの柿森さんは、早速「環境記者」としてデビューしていただくことになりました。ようこそ！

*『聖蹟公園花壇花植替え』他

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4947>

石田さんは、八潮のまわりの四季の移り変わりを投稿してくださっています。この1年は外出自粛の中で、何もせずに1日過ぎてしまう日々を避けるため「歩こう！」と思い立ち、歩くことを「仕事」にされていたそうです。そして、その道中、自然観察をしつつ記事のネタをみつけては投稿してくださいました。この冬は晴れの日が多く、木々や葉っぱの色が青空にとっても映えたそうです。出席者のどなたかから「色鮮やかでカレンダーにしてもいいくらいだ。」との声が聞こえてきました。

桜レポートはご自分の標本木を決めて開花の進み具合を記事にしてくださいました。東京の桜開花宣言の基となる標本木は靖国神社にあり、環境記者石田氏の標本木は八潮にあります。

*『私の桜の標本木』他

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4984>

小滝さんは、図書館再開を待つ、本を読破して（1.5日で1冊のペース！）自粛生活を満喫されたそうです。食料の買い出しの回数を減らしたり、調理を工夫して保存食にしたり、コロナ禍ならではのアイデアがわいて、楽し

めるようになってきたそうです。

外出自粛のためのウェブ会議が多く、疲労回復のための散歩は欠かせなかったそうです。晩秋には美しい黄葉・紅葉、春には寒緋桜を日にち、場所を変えて写真にとり、投稿してくださいました。

* 『私の散歩道～黄葉・紅葉編』他

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4874>

岑山さんは、仕事は在宅でオンライン中心、あとは保育園に通うお子さんと公園を散歩するなどして過ごされたそうです。環境記事は菅内閣総理大臣の所信表明演説「グリーン社会への実現」についての投稿していただきました。

この5月開催予定の「しながわECOフェスティバル」にて紹介予定のイヤホン・ホルダーについてもお話くださいました。山梨県小菅村で社会問題となっている害獣対策として駆除した鹿の皮を有効活用しようと作ったもので、制作は障害者の方たちをお願いしているそうです。5月30日（日）のエコフェスの楽しみが1つ増えました。

* 『菅内閣総理大臣、所信表明演説でグリーン社会の実現を宣言！』

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4850>

新居崎さんは、お仕事が行政書士ということで持続化給付金、支援金などの申請書類の仕事が増えて多忙な毎日だったそうです。また、西中延3丁目会の町会長になられ、コロナの収束を願って「私のアマビエコンテスト」を開催され、大好評だったとのことでした。

また近所の神社のそばの桜が面白い咲き方をするのを発見して感動されたそうです。今まで気がつかなかったのが不思議だとのことでした。

* 『近所の神社前の桜の咲き方がおもしろい』

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4995>

三森さんは今回が環境記者情報交換会デビューとなります。再生可能エネルギーに興味をもたれ、ソーシャルイノベーションを教えていらっしゃるとのこと。今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、秋に再度情報交換会を開催することをお約束し、閉会になりました。

今回は出席されなかった高塚さん、真田さんから以下の記事の投稿をいただきました。

* 高塚さん「酔芙蓉の心変わり」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4837>

* 真田さん「家の電気をCO2排出ゼロの電気に切り替えました」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4902>

ここに紹介できなかった記事は環境情報活動センターのホームページでご覧になれます。

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?cat=23>

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?cat=24>

令和3年4月19日

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2021年04月22日

「花交差点の仲間たち」歩道花壇の植替え

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年06月07日

日 時：令和3年5月30日（日）9:00～10:00

参加：70名

当日は天気にも恵まれ、植替え日和となりました。「新型コロナウイルス」3回目の緊急事態宣言が延長されて4/25～6/20となり、8棟の「花交差点の仲間たち」は感染対策をして植替えを実施しました。いつもながら手際がよく、30分程で植替えを終了しました。東京国道事務所の立会いと大井警察署にご協力いただき、無事終えることができました。

コロナ感染は一つの密でも危険であり、植替えでは仲間との会話は控えめました。花苗とじっくり向き合える楽しい時間で、気分転換できたのではないのでしょうか。 自粛・我慢の生活はまだまだ続きそうです！

植え替えた花たちを眺め、少しでも気持ちが明るくなることを願います。

今季の花苗も環境に強いものを選定、昨年同様の花苗となりました。



ペンタス



メランポジウム



ニチニチソウ *



ラベンダー



マリーゴールド



サルビア



ジニアプロフージョン



大森ハイツ

植替え後の水やりも大事です！



大森パークハイツ



大森海岸ハウス



LM 大森



LM 大森海岸



LM 大森第三



日興パレス大森



シティタワー品川パークフロント

令和3年6月3日

環境記者 真壁美枝子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2021年06月07日

たわわに実るダイヤのような果実たち

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年06月14日

東京の今年の梅雨入りはまだお預けですが、この時期になると八潮団地にある数えきれない種類の木々の葉も深緑を増し、初夏を感じる6月のこの頃です。

梅雨の晴れ間を見つけ歩いていると、春に綺麗な花を咲かせた枝に可愛い実がたわわに実っていました。思わず手を伸ばし、食べてみたくなってしまいます。



びわ



ぐみ



やまもも



都立
京浜運河
緑道公園



さくらんぼ



うめ

自然の大きな営みに包まれた時、安全で楽しい豊かな生活を送る事が出来るし、これからも自然を大切に、様々な恵みを受け続けて行きたいと思いました。

令和3年6月9日

環境記者 石田雅子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2021年06月14日

しながわCSR推進協議会 合同活動参加報告

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年07月16日

7月9日（金）、勝島運河沿いにある「しながわ花海道」の美化活動に、会社から有志を募って参加しました。活動内容は会員企業に割り当てられた花壇にコスモスの種をまくことと、雑草などを取り除く作業です。

「しながわCSR推進協議会」合同活動
(しながわ花海道 美化活動(コスモスの種まき))



左写真および下記目的は、「しながわ花海道 美化活動
(コスモスの種まき)」のチラシより

【しながわ CSR 推進協議会としての目的】
しながわ CSR 推進協議会の社会貢献活動として、
会員企業で大井競馬場の近隣にあるしながわ花海道で
コスモスの種まきを行い、社会貢献活動に対する社員の
意識啓発や会員の交流促進、品川区・地域への愛着、
協議会の区民への PR を推進します。



昨日までの雨が嘘のように上がり晴天の中、作業もはかどりました。

去年も参加したのですが、雨が降らない暑い日が続いたせいで花が咲かないうちに枯れてしまいましたので、今年は咲いてほしいと祈りつつ作業を行い、熱中症対策としてスポーツドリンクを飲みながら無事終了いたしました。

当日は30度を超える暑い日での作業でしたが、運河沿いだったこともあり、気持ちよく作業ができました。

■参加者の感想

猛暑の中 会員企業の方々も黙々と作業されていました。

勝島運河沿いは地域のランニングや散歩コースになっている様です。

今年はきれいなコスモスが風に揺れる事を願います。

令和3年7月12日

環境記者 小野文義

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年07月16日

私の散歩道 ～夏昆虫編～

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年08月04日

今日から8月。暑さとコロナとオリンピックですっかり散歩時間が短くなってしまいました。それでも、散歩道で発見した昆虫たちについてご報告します。

あなたは品川区環境情報活動センターのホームページ“ECOトピックス”6月21日投稿の記事「毎年違う？ミミズやカナブンが多い気がした昨年の話」（*1）を読みましたか？

（*1）<https://shinagawa-eco.jp/wp/coto/?p=3093>

記事の最後に掲載されていた参考URL

（*2）<https://meetsmore.com/t/terminator/media/79123>

以下の記事は、（*2）も参考にしました。

確かに昨年はミミズの死骸を多く見ました。でも、今年は少なめ。突然の集中豪雨のおかげでしょうか？

そして、カナブン（それともコガネムシ？）は、というと……。7月はあちこちで「ブンブン」と飛びまわり、むしゃむしゃ食欲旺盛。

ムムッ、カナブンは益虫で、コガネムシは害虫？？

さて、私が出会った昆虫はどっち？？

そこで、あの記事を読み返して検証を試みました。

結果は下記の通り。

1）7月11日（日）かもめ橋から花海道へ抜ける運河沿いの歩道にて



2）7月24日（土）こみゆにていづらざ八潮門扉前の歩道にて



私の判定は、１）コガネムシ、２）カナブン。

決め手は活動する場所と羽の付け根の形でした。体の形、体の色、飛び方ではなかなか区別をつけられそうにありません。一方、同じような形や色をして益虫と害虫が存在する地球の自然と多様性に大いに考えさせられてしまいました。なお、ここ２～３日の散歩中に、ほとんどどちらの昆虫も見かけなくなりました。もう時期が終了してしまったのでしょうか？？？

令和３年８月１日

環境記者 小滝静子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2021年08月04日

聖蹟公園清掃美化活動報告

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年08月07日

和3年7月30日（金）8:30、品川区立聖蹟公園の清掃を行いました。
月1回の活動も5月、6月は活動予定日が雨だったため中止となり久々の活動です。



■活動の様子

東京サラヤでは社内から参加者を募り、毎月1回早朝に聖蹟公園の清掃美化活動を行っております。
簡単ですがその様子を紹介いたします。



■園内遊具類の簡易目視点検・・・異常なし



■清掃後、記念撮影



清掃、無事終了し記念撮影。お疲れ様でした。

■参加者感想

- ・今回短い時間ではありましたが、聖蹟公園のごみ拾い清掃を行いました。
- 公園内には、たばこの吸い殻やライター、空き缶などが落ちておりました。日中は多くの子供達が遊ぶ場所でもありますので、今回の清掃により子供たちが安心して遊べる環境作りに貢献することができて良かったです。
- ・お酒の空き缶が捨てられていました。
- いつもより少し早起きしてきれいにし、気持ちよく1日がスタートできました。

■聖蹟公園についての紹介



令和3年8月4日

環境記者 小野文義

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年08月07日

私の散歩道 ～夏酔芙蓉(なつすいふうよう)編～

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年08月18日

東京オリンピック2020最終日男子マラソンの放送終了後、つけっぱなしのラジオから「子ども科学電話相談」が聞こえてきました。

「なぜ、水色の朝顔なのに蕾は赤紫色をしているのですか？」

「植物は青い色を作るのが難しいので、一番大事な花を開くときだけものすごく頑張って青い色を作る。紫や赤色は植物にとって安定した色だから、蕾も花が萎んだ後も赤紫色になる。青い花を絞って汁をとって、お酢やレモンを垂らすとパッと紫か赤色になるから試してごらん。」

小学1年生の質問に答えていたのは、東京大学大学院理学系研究科教授の塚谷裕一先生。なるほど、なるほど。そういえば青い西洋アサガオをあちこちで見かけます。確認してみよう！



→青い花

→薄い赤紫色の蕾

→濃い赤紫色の萎んだ後

ところでその近くで発見！萎んだ後は濃いピンク色なのに咲いている花は白い。もしや以前記事で読んだ「酔芙蓉」では・・・！！

さっそく、品川区環境情報活動センターの「区民環境記者レポート」サイトで「酔芙蓉」を検索すると2件ヒット。

- 「酔芙蓉の心変わり」2020年

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4837>

- 「1日で3度色が変わる「酔芙蓉」の姿を追いました」2006年

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=7>

この二つの記事を読んでからいざ出陣。私も1日に3度色が変わるかを追ってみました。ただ、当日の東京の気温は最低27.2℃、最高36.8℃。前述の記事にもあったアントシアニンの合成に必要な25℃以上の気温が朝からあった影

響があるかも、と懸念しながらの観察記録は下記のとおりです。



2006年の記事ほど赤くはなりませんでしたが、気温や時間の加減もあったのかもしれません。ついでにこの酔芙蓉のすぐ横に槿（むくげ）がありましたので、その違いと見分け方も勉強しちゃいました。右の2枚が槿。最後の1枚が酔芙蓉の葉です。



令和3年8月11日
環境記者 小滝静子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年08月18日

私の散歩道 ～いろいろ発見伝～

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年08月18日

今月3回目の「私の散歩道」です。今回は散歩道で出会ったいろいろな発見についてご報告します。



●その1-セミたちが集まる樹を発見！ありゃあ、セミの抜け殻がたくさん付いている～っ。すぐ横の樹を見あげると大人のセミがあっちにもこっちにも！そして、視線を下に持ってくると、土に穴がボコボコ。ここは京浜運河緑道公園。樹木は他にもたくさんある。同じ種類の樹もあるのにこの樹に集中している。なぜ？？？

図書館で半日、調べてみました。わかったことは・・・。

- ・セミの幼虫は6年間土の中で暮らす。土が多く露出している場所でないと育たない。（参考図書①58ページ）
- ・セミはそれほど移動能力がない。1カ所で多く発生しても、広がっていくには時間がかかる。（参考図書①60ページ）



●その2-ショウジョウバツタに出逢いました。それもたった10分の間に2度も。正面の顔がひょうきんなのでパチリ。そして、またパチリ。むむっ、色が違う！全体としては緑色だが、立派な後ろ脚が茶色と緑色。もしかして、これは世に言う「擬態」？

ということでこちらも調べてみました。わかったことは・・・。

- ・ショウジョウバツタ（精霊蝗虫）は円錐形の顔が特徴。飛ぶ時にキチキチと音を出すのでキチキチバツタとも呼ばれる。緑色・茶色・緑と茶が混ざったものがある。（参考図書①112ページ）
- ・アゲハチョウの蛹(さなぎ)は緑色と茶色と中間的なオレンジ色。動けない彼らは「足」を使って環境を感知。滑らかな表面をしたミカンの葉や細い小枝なら緑色、粗い表面をした太い枝や枯れた枝なら茶色の蛹となる割合が増える。（参考図書②120-122ページ）



●その3-ガラッと虫から植物へ一変。暑い夏には白い花が涼しげ。テッポウユリを道端で発見！園芸種とされている書籍もありますが、沖縄の海辺を飾る「野生のユリ」との記述もみられます。そこから50m先に白い花、発見！！カラスウリです。ただし、撮影が朝8時—昨晚咲いたあとのお疲れの姿でした。そこで、夜7時半に再度訪問。咲いていました。フラッシュをたいて撮影した姿が右側の写真です。

・一夜花（一夜しか咲かない）はカラスウリの他に、ユウガオ・マツヨイグサ・オシロイバナ・ゲッカビジンなどが知られているが、一日花（昼間咲いて一日で終わる）もほとんどが夏に咲く花である。気温が関係しているらしい。（参考図書③100ページ）

・名の由来は紅熟した果実をカラスが食べるから、というのが通説。別名、タマズサ（玉章）。種子が黒い俵型の中央に帯を巻いたような膨らみがあり、結び文のようであることから生まれたと言われている。（参考図書③102-103ページ）

秋になると赤い卵型の実をつけてくれるでしょう。秋に向けての課題発見—是非、タマズサなる種子を確認してみよう！

＜参考図書＞

①身近な昆虫のふしぎ—小さいカラダにつまんでいる生きていくための知恵と工夫とは！？

著者：海野和男 発行：2012年7月25日ソフトバンククリエイティブ（株）

②だましのテクニクの進化—昆虫の擬態の不思議

著者：藤原晴彦 発行：2014年10月23日（株）オーム社

③柳宗民の雑草ノオト—夏

著者：柳宗民 画：三品隆司 発行：2019年5月30日毎日新聞出版

令和3年8月13日

環境記者 小滝静子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年08月18日

秋の花「彼岸花」、別名「曼殊沙華(まんじゅしゃげ)」

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年09月22日

9月に入り、秋雨前線の影響が気温も低く、雨やくもりの日が続いておりましたが、何処からともなく金木犀の香りが漂ってきたので、傘をさしながら京浜運河緑道公園を歩いてみました。ちょうど雑草が刈り取られ、地面からスーと伸びた茎の先の蕾（つぼみ）が膨らみかけ、赤くなっているのを見つけました。



3日後、花が咲くのを楽しみに出かけてみましたが蕾が広がり、いつ開花しても良い状態でした。早く開花した一輪が風に揺られて、可愛く咲いているではありませんか・・・

私が子供の頃、畦に咲いている彼岸花には毒があるから触らないようにと母から言われた事を思い出しました。球根に毒があるとか・・・？



9月半ばには6枚の花弁が放射状に外に向かって一斉に咲きそろい、ボリュームのある真っ赤で妖艶な姿を楽しむ事が出来ました。今では品種改良もされ、白やピンク等の色もあるそうです。



夏の最後に鳴くツクツクボウシ蟬の声も段々少なくなり、夕暮れになると草むらから虫の声が聞こえ始め、季節は廻（めぐ）り、秋の訪れを感じるこの頃です。

令和3年9月18日
環境記者 石田雅子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2021年09月22日

花壇の花が満開です

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年10月11日

令和3年10月6日（水）、私が勤務する東京サラヤ本社の花壇の花が満開を迎えております。食草園を兼ねた花壇で、真夏の時期は悪天候のため花に元気がなく、その花の一部が花壇からこぼれ落ちています。

現在満開を迎えた花々をご覧ください。

右下写真のレモンも収穫の時期を迎え近日中に収穫しようと思っております。



令和3年10月6日

環境記者 小野文義

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年10月11日

私の散歩道 ～秋・ガクアジサイ編～

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月05日

先日、くちなしの実をいただきました。その際に、八重のくちなしには実がならないということを教えていただきました。なるほど、私の散歩道でもくちなしの花には出会っていますが、実はあまり気がつきませんでした。この時期、くちなしの低木を見つけるとふと、実がなっているか気をつけるようにしています。



今回は、くちなしと同じようにアジサイにも実がなるということを知りました。ガクアジサイは実がなるようです。八潮団地内や京浜運河緑道公園には様々なアジサイがありますが、下記の写真は緑道公園大井競馬場駅側の一角で撮影したものです。



ドライフラワーになったガクアジサイではなく、実がついていました。WEBで調べたところ、確かにガクアジサイには実がつくようです。何気なく見ていたアジサイやくちなし。この秋、実をつける種類とつけない種類があることを知りました。皆さんも、ちょっと目を凝らして植物を観察してみませんか！

<参考サイト>

樹木図鑑（ガクアジサイ）

<http://www.jugemusha.com/jumoku-zz-gakuajisai.htm>

樹神戸市立森林公園あじさい情報センター

<https://www.kobe-park.or.jp/shinrin/ajisai/arekore/arekore09/>

令和3年11月3日

環境記者 小滝静子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2021年11月05日

私の散歩道 ～秋・街路樹編～

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月15日

最近の東京の空は、気持ち良く澄み渡っています。美しい青空に、色づき始めた樹木。自然という芸術家は、多くの人々の心を癒してくれます。今回は身近な街路樹に焦点をあててみました。 9月～10月に撮り溜めた一部をご笑覧ください。





<番外編>



番外編の2枚は10月に港区白金のプラチナ通りで撮影したものです。立派なイチョウ並木がある通りですが、銀杏が大量に樹の根元に集められていました。このプラチナ通りはバス通りで、そこそこ車が通過します。（写真はタイミングを待ちました！） 来年は、「SDGs」の観点から自然の恵みをリサイクルするために紙袋と軍手を持参してお掃除に行こうかなあ、と考えています。

令和3年11月12日

環境記者 小滝静子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月15日

アートの街、天王洲アイルでバンクシーの謎に迫る ―バンクシー展覧会訪問記―

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月18日

アーティファクトな街、天王洲アイルで開催されているバンクシー展覧会を見に行ってきた。新型コロナウイルス感染症ですっかりステイホームが身についてしまい、実に2年ぶりの展覧会訪問となった。



今回の「バンクシーって誰？」展（東京展）は、東京・天王洲アイルにある寺田倉庫で開催されている。バンクシーの初期の作品から、最近話題になった「風船と少女」や「Aachoo!!（ハクション）」まで50数点の作品が展示されている。今回の展覧会の特徴は、寺田倉庫の大きな空間を利用して、倉庫内（美術館として使用）に街並みが再現されていることだ。たとえば倉庫の一角にバンクシーの故郷ブリストルの町中が再現され、訪問者はバンクシーがその町に描いたグラフィティを堪能することができる。また別の一角にはN Yのマンハッタンの街並みが再現され、ここには多くのバンクシーのグラフィティが描かれていた。

これまでバンクシーというと、「神出鬼没の覆面の芸術家」で、「2018年のザザビーズのオークションで100万ポンド（1億5千万円）で落札された作品「風船と少女」が、落札の直後に絵画にしくまれていたシュレッターで裁断された」。また最近になって「当該の作品が改めて1600万ポンド（約25億円）で落札された。（今度はシュレッターで粉碎されなかった）」ことぐらいしか知識がなかった。今回の展覧会を見てバンクシーについて、多くを学ぶことができた。

バンクシーの作品は、町の壁や橋に所有者に許可を取ることなく描かれるため（いわば落書き）、法的にみれば「犯罪」であり「非合法」な行為とみなされ当局に逮捕される可能性もあること。またバンクシーもかつては他の多くの町中の落書き手と同様に、スプレー缶を使って街中の壁に絵を描いていたのだが、そうすると作品を描くに時間がかかるため（つまり逮捕される可能性があるため）、今では「ステンシル」という手法を使って短時間で絵を仕上げていることも初めて学んだ。逮捕されない理由もここにあるのかと納得がいった。その一方「ステンシル」技法ではだれでも簡単に複製ができてしまうという欠点があり、独自性や新規性が求められる「芸術性」の観点からすると疑問符が付くことも学んだ。しかしながら、バンクシーの作品はいつも時代の最先端をとらえ、確信を突くメッセージを放ち、コンセプチュアルアートとして観る人の心を引き付ける。まさに現代に即した創造的なイノバティブな芸術であるといえよう。

またバンクシーはイスラエルとパレスチナの問題に興味をもち、数々の作品をパレスチナ自治区に残していることなどを今回の展覧会を見て初めて知った。著名な「Love is in The Air」や「子猫」などの作品がインディファードやガザ地区侵攻をモチーフにした作品であると知り、改めてその強いメッセージに胸が熱くなった。

寺田倉庫の近隣のカフェではバンクシーの作品にちなんだパフェやカクテル、スイーツなどのメニューが楽しめる。天王洲はアートの町。ストリートを歩くとあちこちに巨大なアート作品が出現し街を歩く人の眼を楽しませてくれる。フォトジェニックな街だ。心がほっこりし、エコを感じた1日だった。



令和3年11月13日

環境記者：三森八重子

[環境情報活動センターより]

バンクシーの作品には消費社会や環境への問題提起を表現したものが多くあります。

カテゴリ：令和3年度

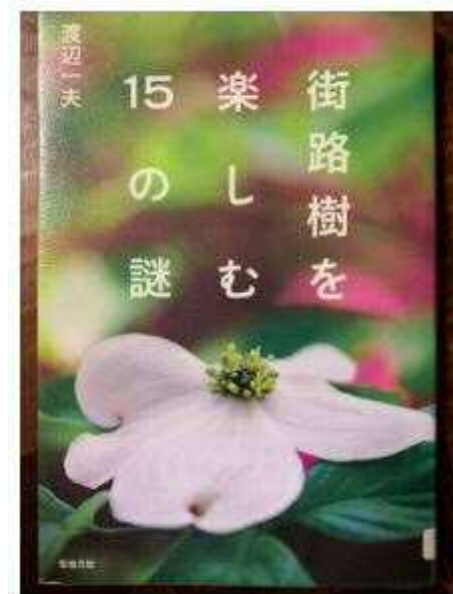
投稿日：2021年11月18日

街路樹を楽しむための一冊

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月22日

八潮図書館が特別整理休館（3連休）ということで利用できないのを機会に、品川図書館まで足を運んでみました。3階の特別コーナーの前を通過する際、ふと目に飛び込んできました。



「街路樹を楽しむ15の謎」

著者：渡辺一夫

発行：築地書館

2013年4月25日

前回、「私の散歩道～秋・街路樹編～」をお届けしたことを図書館が知るはずはありません。こんな偶然の出逢いは大切にせねばと、早速借りてきました。この中の幾つかを抜粋して皆様へ、お伝えしましょう。

<ケヤキ> P7～20

街路樹の中でも人気の高い木で、四季折々の美しさを楽しめる。大きく育った並木は、夏の強い日差しを遮り、歩道の気温も下げてくれる。しかし、戦前はほとんど街路樹として使われることはなかった。理由は狭い街路では大きくなりすぎること、大気汚染に弱い可能性があること。近代的な街路樹ケヤキの最初は表参道。大正9年

（1920）に明治神宮の参道として完成した通りで、翌年両側に201本植栽された。このケヤキは戦災でほとんど消失してしまったため、生き残っているのは10本だけ（2013年当時）。現存するケヤキは戦後生まれということになる。

<イチョウ> P29～38

横浜・日本大通りは横浜公園から海に向かって延びる約400メートルの通りで、沿道には神奈川県庁など歴史的建造物も立ち並ぶ。歩道に合計65本のイチョウが植えられている。この通りは、慶応2年（1866）の「豚屋火事」を契機に、日本人町と外国人居留地を明確に分ける機能とともに外国人居留地を火災から守る防火帯として街路が造られた。明治12年（1879）、英国人のR・H・ブラントン設計により西洋式道路として完成。ただし、植樹帯に植えられた木はイチョウではなかった。現在見られるイチョウ並木は関東大震災の復興事業の一環として昭和4年（1929）頃に植えられた。選ばれた理由は、病虫害・大気汚染・剪定などに対して非常に強く、都市の街路においても生育が良かったから。

<プラタナス> P114～127

古代ギリシャの時代に、哲学者がプラタナスの樹下で哲学を論じたという。また、医学の父ヒポクラテスが、その大樹の下で医学を講じたと伝えられ、これにちなんでプラタナスは大学の医学部キャンパスによく植えられている。葉は大きく、カエデのように切れ込みが入っている。樹皮は迷彩服のような色に剥げ、まだら模様が目立つ。明治初年に輸入された外来種で、明治末に東京の街路樹として採用されて以来たくさん植えられてきた。しかし、維持管理コストがかさむため、急激に減少している。成長が早く頻繁に剪定が必要で、強く剪定されているプラタ

ナスの枝には剪定コブができています。



左の写真：東京都立産業技術大学院大学校庭のイチョウ

右の写真：京浜急行立会川駅界隈のプラタナスの剪定コブ

このほかにも12種類の樹木について書かれています。興味が湧いてきた方は手にとってみてください。図書館へは本日、返却しておきます。

令和3年11月18日

環境記者 小滝静子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月22日

「花交差点の仲間たち」歩道花壇の植替え

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月26日

日 時：令和3年11月14日（日）9：00～10：00

参加：65名

大森海岸駅前南大井2丁目のマンション8棟での歩道花壇の植替えです。
立冬が過ぎ冷え込みを感じる朝でしたが、天候に恵まれ穏やかな植替え日和となりました。
小さな仲間が大勢参加、仲間との会話が楽しい時間も「コロナ対策」で言葉少なに花苗と向き合う時間に。
東京国道事務所の立会いと大井警察署のご協力で、事故もなく無事終わることができました。



大森ハイツ

大森パークハイツ

大森海岸ハウス

LM 大森

LM 大森海岸



LM 大森第三



日興バレス大森



シティタワー品川パークフロント



パンジー シクラメン デージー ノースポール

マーガレット キンセンカ ビオラ

この花苗が花壇を彩ります(*^▽^*)

シクラメンの蕾はまだ小さく、葉が目立ちますが、冬の花壇を彩り歩道を行き交う人々を和ませています。
来春には華やいだ「大森海岸花ロード」になることと思います。



令和3年11月22日

環境記者 真壁美枝子

カテゴリ：令和3年度

庶民の街、中延商店街が生み出す「幻のはちみつ」＝中延日本蜜蜂保存会＝

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月29日

庶民の街、中延商店街でミツバチを飼っている団体があると聞き、11月「中延スキップロード」商店街を訪問した。商店街から路地を曲がった古いアパートの一角に「NPO法人中延日本蜜蜂保存会」の事務局があった。代表を務める青木弘道さんらは2008年からミツバチを飼い始め、現在は3万匹ほどの蜂が、事務所裏の土地（一般住民の庭）に置かれた3箱の巣箱に巣を作っていた。巣箱の細い出入り口からは矢継ぎ早にミツバチが飛び立ち、採蜜から戻ってきたミツバチと入れ替わる。巣箱の周辺には、「戸越公園」、「林試の森」、「洗足池」などの大きな公園が3つあり、また中延商店街周辺は古い戸建ての家が多く家の周りに花や木を植えているという。そのためミツバチにとっては採蜜源に事欠かないという。ミツバチの世話は周辺に住む高齢者が交代で、ボランティア（ただし交通費＋ランチ代は支給）で行っているという。



中延商店街入口



中延日本蜂蜜保存会
代表青木弘道さん



中延日本蜂蜜保存会が育て
ているニホンミツバチ巣箱



「幻のはちみつ」(右)と3年
寝かした「熟成はちみつ」(左)

年に一回採取する蜂蜜は中延日本蜜蜂保存会の事務所で販売している。「幻のはちみつ」と命名された蜂蜜は1瓶【50グラム】1400円。一般に市販されている蜂蜜に比べて少し割高だ。青木さんらが育てているミツバチは一般によく養蜂されている外来のセイヨウミツバチではなく、在来種のニホンミツバチなのだ。世話が簡単で蜂蜜の収穫量が多いセイヨウミツバチに比べて、青木さんたちのニホンミツバチは世話が大変で、かつ蜂蜜の収穫量がセイヨウミツバチの十分の一程度。しかも気温などの外部環境に左右されやすく飼育が難しい。そのためニホンミツバチの蜂蜜はほとんど流通していない“幻のはちみつ”なのだ。

ではなぜ青木さんらは、収量が多く大きな儲けが期待できるセイヨウミツバチではなく、この気難しく希少なニホンミツバチの養蜂に取り組んでいるのか？青木さんはこの「中延日本蜜蜂保存会」の他に、別のNPO法人「街のお助け隊コンサルジュ」を立ち上げており、中延近辺に住む高齢者の生きがいに注力している。その一環としてニホンミツバチの養蜂に着手した経緯がある。蜂の世話はこれら高齢者がやってきて巣箱の手入れをし、ハチが元気であるか、花粉や蜜をちゃんと運んでいるか観察してくれている。

青木さんらは今後のビジネスプランをたてている。まず、現在のニホンミツバチは収量が少ないため、上述の毎年搾蜜して販売する「幻のはちみつ」に加えて、搾蜜するまで3年間寝かした「熟成はちみつ」を売り出した（1瓶【50グラム】1750円）。また現在、蜂蜜は対面販売だけを行っているが、今後はネット販売も始める計画で準備を進めている。将来的には、クラウドファンディングの導入も視野に入れている。気難しく厄介な希少種ニホンミツバチの維持に取り組む中延日本蜜蜂保存会の挑戦はまだまだ続きそうだ。

令和3年11月22日

環境記者 三森八重子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年11月29日

子供用品無料交換会「おさがり屋さん」

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月03日

今回は、環境記者の みね山(以下M)が、品川近郊で「おさがり屋さん」を開催している伊藤かおりさんと東矢恭子さん(以下Iさん、Tさん) にインタビューしました。

個人や地域からできる、環境へのポジティブなアクションとは？

M 「おさがり屋さん」とは何ですか？

Iさん・Tさん 「おさがり屋さん」とは、子供服や子供用品の無料交換会です。使わなくなった物を持って行くと、交換会にある物を何でも持って帰る事ができます。

M 実は私も息子と、使わなくなったおもちゃを持って参加した事があります。息子は新しい電車のおもちゃをもらって大満足でした。様々なアイテムがありますよね。

Iさん・Tさん 子供服、マタニティ服、おもちゃ、絵本、育児グッズなどがあります。保管場所が無いと小さな物でお願いしていますが、大物はInstagramで写真を投稿し、引き取り手が見つければ会場で引き渡ししてもらっています。過去に大型おもちゃや自転車などが交換されました。



M 自転車も！すごいですね！「おさがり屋さん」を始められたきっかけは何ですか？

Iさん・Tさん 服が好きで、フリーマーケットのお店屋さんごっこのような雰囲気が好きでした。それがコロナで児童センターでのおさがり交換会やフリーマーケットが停止となり寂しい思いをしていましたが、個人でなら対策をしながら小さく開けるかと思い、始めました。来てくださる方は近所の方がほとんどですが、今ではInstagramの告知を見て電車で来られる方もいらっしゃいます。

M アットホームな雰囲気で楽しませていただきました。物をごみにせず地域や身近なコミュニティで循環させる素晴らしい取り組みですね。

Iさん・Tさん まだ使える物を次の人に引き継いでいくお手伝い出来るのが嬉しいです。そのままだと捨てられる物が次に必要な方のところに行って役に立つ。もらう方もですが、あげる方にも喜んでいただいています。

M 私も参加した際とても気持ちがよかったですし、何より息子が喜んでいました。もってきたおもちゃには少し壊れている部分もありましたが、1年以上経った今も遊んでいます。次から次へと新しい物を買うことや、物を捨てることについて、改めて考えさせられます。おさがり屋さんの理想の形は何でしょうか。

Iさん・Tさん 「無理をしない範囲で楽しく」が理想です。色んな所からやってみたいという声を頂きます。やってみたい人がそれぞれの場所で、その人達に応じた形で開催されて広がっていくのが理想です。難しく考えず、例

えば個人宅の軒先やスーパーの駐車場の一角を借りて等、出来る形でやってみたら良いと思います。活動する事で物の寿命が伸びて、生産する方も長く使える物を適正価格で販売出来る様になれば良いなと思います。

M 次回の「おさがり屋さん」の開催予定、参加方法を教えてください。

Iさん・Tさん 次回は2021年12月4日(土)12:00~16:00です。場所は大崎駅近くの“CAFE&HALL Ours”さんです。持ち込みは、ベビー・子供服、おもちゃ、育児グッズ、絵本など、3点まで可能です。持ち込みなしでも参加可能です。持ち帰りは何点でもOKです。今回は同時にエシカルな雑貨のマルシェ（フランス語の「市場」）も開催しています。

以降の開催は「おさがり屋さん」インスタグラムで告知します。

<https://www.instagram.com/osagariyasan/>

前日に急に決まる事もあるので、時々チェックしてみてください。

M ありがとうございます！



令和3年11月30日

環境記者 岑山萌子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月03日

私の散歩道 ～晩秋・初冬編～

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月03日

カレンダーが最後の1枚となってしまいました。12月に入って3日目というのに、大雨あり、地震あり、そして寒暖あり、気候も大忙し。

今回は、先月から撮り溜めた写真を掲載します。晩秋から初冬へと移り変わる品川をお楽しみください。3段目からは、どこの、どの樹かわかるかもしれませんよ！





＜番外編＞

品川区環境情報活動センターのサイトで、以前ツマグロヒョウモンの記事を見たような気がして探してみたところ、下記がヒットしました。平成18年度の記事ですが、とても詳しくツマグロヒョウモンの情報が書かれています。

品川区に〜ツマグロヒョウモン〜が飛び回っています！！（2006年10月03日）



そして、上の2枚は私が出逢った2匹。綺麗な左側が♂（オス）ではなく、こちらが♀（メス）。そんな情報も載っていた15年前の先輩記者に拍手&感謝。南方系の蝶であるツマグロヒョウモンたちは、しっかりと品川区に住み着いたようです。

令和3年12月3日

環境記者 小滝静子

カテゴリ：令和3年度

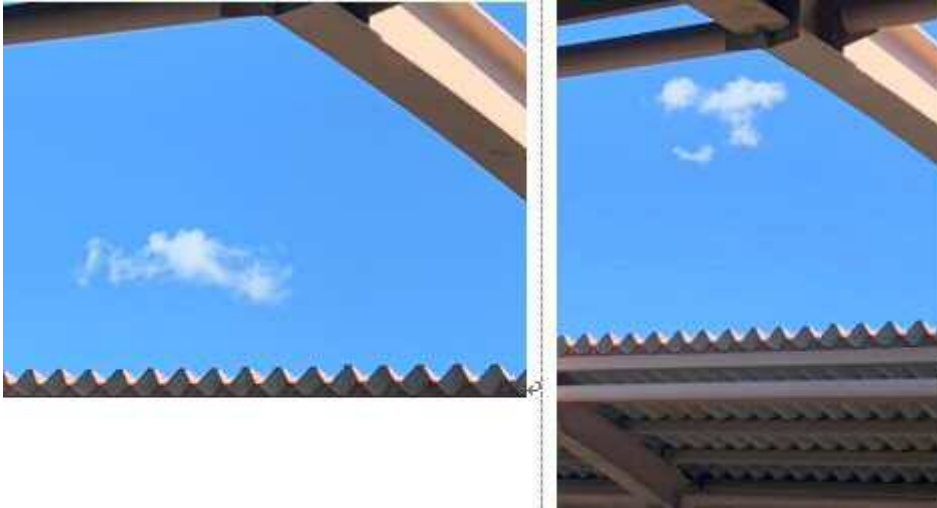
投稿日：2021年12月03日

雲、もくもく

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月07日

友人と東京モノレール大井競馬場駅の上りホームで待ち合わせをしたある日のこと。羽田空港寄りのベンチでの待ち時間中に発見！ 駅の屋根の隙間に、うっすら白いものが現れ、ゆっくり膨らんで成長し、右上の方へ流れて去っていく。しばらくすると、また白いものがふわふわと気持ちよさそうに湧き上がり、仲間を生み出し、様々な形を作りながら大空へ旅立っていく。時には、文字を書くことも。「こ」「さ」の次は「し・す・せ・そ」かなっ？



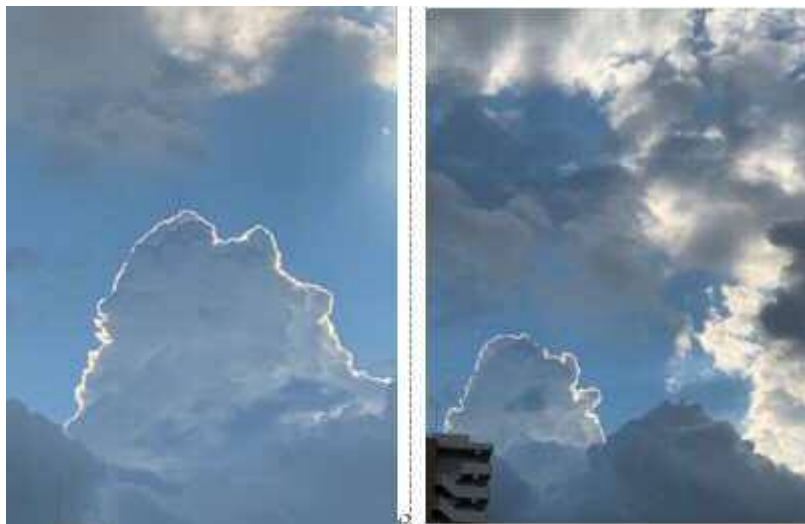
「雲」って、一瞬にして形を変えるので二度と同じものを見ることができない。あっ、あれ面白いと思っても、スマホを準備するうちに形を変えてしまう。そんな移り気の「雲」の写真の中でも、まあまあの作品を集めてみました。





1 段目は「白鳥の飛来」と「クリスマスツリー」、2 段目は「アダムの創造（システィーナ礼拝堂天井画）」と「泣ぐ子は居ねがー（なまはげ）」、3 段目は「地球よ、さようなら（UFO離陸）」「ファルコン現る（ネバーエディングストーリー）」

<番外編> は夏の夕方に撮影した「おい、雲の上の君！元気かい？」



子供の頃に戻って、空と雲を楽しんでみませんか？

令和3年12月6日

環境記者 小滝静子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月07日

キューガーデンのボタニカルアートと、アール・デコ様式の装飾を愛でる

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月08日

キューガーデン
英国王室が愛した花々
シャーロット王妃とボタニカルアート展
at 東京都庭園美術館



東京都庭園美術館

目黒駅でふと見かけたポスターに「英国王室」と「キューガーデン」という文字が躍っていた。2つのキーワードが胸に突き刺さり、早速「キューガーデン：英国王室が愛した花々シャーロット王妃とボタニカルアート展」が開催されている東京都庭園美術館へ足を運んだ。英国といえば「紅茶の国」、しかしガーデンの国でもある。

キューガーデンが象徴する“イングリッシュ・ガーデン”とは「自然を主役にした風景式庭園で17世紀から18世紀の英国で発達した。フランス式ガーデンでつかわれる幾何学的デザインの花壇などを排除して、自然な植栽のなかに曲線の遊歩道を配置した、いわば山野や農村地帯の景観をそのまま庭園とするもの」（参考：恵泉大学・恵泉ディクショナリー）。英国人のガーデン愛は深い。

今回の展覧会は「キューガーデン」が所蔵するボタニカルアート（植物画あるいは植物細密画）の展覧会が、旧朝香宮廷である東京都庭園美術館で開催されており、「1粒で2度おいしい」展覧会となっている。すなわち、旧朝香宮廷の美しい建物・装飾を愛でながら、そこに飾られた精密な描写と美しさを兼ね備えている数々のボタニカルアート（植物画）を楽しむことができるのだ。

「キューガーデン」（正式名、英国王立植物園）は、英国王ジョージ3世（1738年－1820年）の母であるオーガスタ皇太子妃が1759年に開設した小さな庭園を起源とする。その後ジョージ3世とその妻であるシャーロット王妃の時代に飛躍的に発展を遂げる。現在では世界を代表する植物園となり、広さ132ヘクタール（東京ドーム28個分）の敷地内に、3万種以上の植物と、1万4千本の樹木が植えられている。世界遺産にも指定され、世界有数の観光地である一方、植物と菌類の分野で世界をリードする世界的研究機関でもある。3万種の植物の種子も保存している。今回の展示はシャーロット王妃（1744年－1818年）に焦点を絞り、シャーロット王妃の時代に制作されたボタニカルアート100点余りと、王妃が愛用したウェッジウッド製の陶器「クイーンズウェア（王妃の陶器）」などが展示されている。

展示は5部から構成されている。

（1）「英国王室と共に歩んだ植物園」の部

17世紀から18世紀になると英国（及びフランス）に強大な権力をもつ君主が誕生し、彼らが「博物学」を重視するようになった。そういった流れで1759年にキューガーデンが設立された。英国王室と植物園はその後も深いつながりを保ち、多くの「ボタニカルアート」（植物画）が制作された。ここには著名な画家による植物画と、とりわけイングランドの国花であるバラの植物画が展示されている。



（２）「シャーロット王妃がつかないだ文化の開花」の部

17世紀から18世紀に英国で起きた産業革命の時代には王室が科学と産業の発展の一翼を担った。ジョージ3世の妻であったシャーロット王妃は芸術と科学を愛し、英国の産業発展に寄与した。ここにはシャーロット王妃の肖像画とともに、シャーロット王妃が好んだウェッジウッドのテーブルウェアや花器などが並ぶ。

（３）「女性画家たち」の部

18世紀には植物学や水彩画を学ぶことが女性の教養の1つとされ、多くの女性の植物画家が誕生した。女性の職業画家を産むことで、ボタニカルアートは女性の人権運動の活動をも後押しした。ここには当時活躍した多くの女性の植物画家の作品が紹介されている。

（４）「カーティス・ボタニカル・マガジン」の部

1787年に英国で創刊された「カーティス・ボタニカル・マガジン」を紹介。同マガジンは今も王立植物園により刊行されている。ここでは「カーティス・ボタニカル・マガジン」に掲載された専属画家が描いた精密なボタニカルアートが数多く展示されている。

（５）「カンパニー・スクール」の部

「カンパニー」とはイギリス東インド会社を指し、18世紀後半から19世紀にかけて、英国のために植物画を制作したインド人（一部東南アジア人）画家たちを「カンパニー・スクール」と呼んでいる。ここにはカンパニー・スクールの画家たちが描いたボタニカルアート作品が展示されている。

ギャラリーの一角には「ドローイングルーム」も再現されている。同ルームはお客様をもてなす応接間であるが、女性を中心とした社交の場としても使われた。ボタニカルアートの制作にも使われたという。本物と見間違えるような正確・精密さと、心を打つ美しさを兼ね備えたボタニカルアートとクイーンズウェアを見学した後は、美術館裏に造られているガーデンを探索する。澄み切った池に紅葉が生える日本庭園と、黄色のイチョウの枝ぶりが美しい西洋庭園。山手線の駅から徒歩5分の場所とは思えない時空を超えた経験が堪能できる。

↓ ドローイングルーム



↓ 日本庭園



東京都庭園美術館前の

イチョウ並木 →



新型コロナウイルスが駆逐され国境が開かれた暁には、是非英国へ飛び、まずキューガーデンを訪ねようと心に決めた。

[環境情報活動センターより]

キューガーデンが象徴する“イングリッシュ・ガーデン”とは「自然を主役にした風景式庭園」で、イギリスの田舎で見られる自然の風景を庭で楽しむスタイルとなっています。自然を愛する心は万国共通です。

令和3年12月3日
環境記者 三森八重子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2021年12月08日

名残の黄葉

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月15日

異常気象の為でしょうか・・・？ 11月頃から紅葉した桜の葉も強風に振るい落され、落葉樹も紅葉をしないうちに枯れて散ってしまい、ゆっくり紅葉を楽しむ事が出来なかった今年の大井ふ頭緑道公園でした。ところが、12月に入り気温が下がると共に、常緑樹の間の木々に黄葉が始まり、木漏れ日に照らされ鮮やかな黄色が映えていました。



木々の根元はふかふかな枯葉で敷き詰められていました。良い腐葉土となり、草木の栄養になる事でしょう。松並木には松ぼっくりが沢山落ちていました。



鳩たちが一生懸命餌をついばんでいました。これから迎える厳しい冬に向かい、栄養を貯えているのでしょうか・・・？



山吹の花がたくさん咲いていて、冬がれの遊歩道を和ませてくれていました。初冬の雰囲気になりながら、のんびりと歩いて来ました。

令和3年12月12日

環境記者 石田雅子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2021年12月15日

「東京メガイルミ」～大井競馬場イルミネーション～ =しながわ区民デーに参加=

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月21日

大井競馬場で開催されている「東京メガイルミ」が11月21日から23日、品川区民を優待する「しながわ区民デー」を行うというので早速行ってきた。



「東京メガイルミ」は2018年から開催されてきた。新型コロナウイルス蔓延による緊急事態宣言発出等の影響を受けて一時期休止を余儀なくされていたが、今シーズンは10月16日から一部演出をリニューアルしてオープンした。

筆者は、コロナ以前には東京と大阪を毎週飛行機で行ったり来たりしていたので、週に一度はモノレールの車窓から、大井競馬場の厩舎や、競走馬・調教師などをぼんやりとながめていた。しかし競馬場へ赴くのは初体験。ハラハラドキドキ。

東京モノレールの大井競馬場前駅から2分ほど歩くとすぐに会場の大井競馬場があり、電飾で色どられた門はまるで¥◎\$%&遊園地のよう。大井競馬場は世界で唯一右回りと左回りのトラックがあり、広大な敷地を持つ（面積38万平米＝東京ドーム8個分）。その広い競馬場を舞台に、LEDをふんだんに使った電飾が施されている。

目玉の「メガイルミショー～噴水とオーロラのきらめき～」は3部で構成されている。

「虹色に輝く光の大噴水」：水が地上30メートルほどまで到達する大きな噴水が、『銀河交響曲』や、『和太鼓・天地雷鳴』などの音楽にのせて舞う。躍動感あふれる音楽と水柱、レーザー光線が三位一体となり物語を生み出す。

「オーロラの森」：噴水の前方に電飾が施された木々があり、その上方にレーザーで映し出されたオーロラが現われ、神秘的な光景を生み出す。

「光と遊ぶ大樹」：オーロラの森の真ん中に守り神のような大木が鎮座し、それをイルミネーションが彩る。照らし出す光が変わると、大木はまるで生きているかのようにその表情を変える。時には時空を超えた幻想的な姿に、時には生命力にあふれた雄雄しい姿を示す。

とりわけ噴水ショーの演出は大がかりなのでメガイルミ会場のどこからでも楽しむことができる。

そのほかにも多様なイルミネーションが会場を埋め尽くしている。はるかかなたの水源から流れてくる水がやがて大きな滝となって流れていく様子を表現した「清流の輝き」、桜をイメージしたLEDトンネルが100メートルも続く「江戸桜トンネル」（下左写真）、日本人の心のふるさといえる稲作田を描いたエリア「日本原風景」（下右写真）など見どころが満載だ。



競馬場だけあって場内のレストランはガッツリ系メニューが目白押し。ぶっかけうどん（400円）や、ラーメン（550円）、スタミナ丼（600円）、ハンバーグ丼（850円）、定番のカレー（並盛カレー、550円）など胃袋が満たされそうな食事が手ごろな値段で提供されている。

アルコール好きには「STAR LIGHT」というビアレストランも設置されている。店内には色とりどりの馬具が展示されているコーナーがあり、東京シティ競馬（TCK）の記念すべきレースの写真が飾られている。あの「ハイセイコー」の写真もあった。ホールの中央には馬主会会長の銅像が建てられている。



競馬場だからもちろん本物の馬もいる。頭にリボン、胴にはキラキラしたイベント用の晴れ着を着せられたミニチュアホースや誘導馬が記念撮影に応じてくれる。一方、放牧場ではポニーが軽やかなギャロップであちこち移動しながら夜食をついばんでいる。



今回大きな新たな発見もあった。大井競馬場は都内にあり多数の観客を動員し大きなイベントを開催しているが「地方競馬」であり、大井競馬場を所有する「東京都競馬株式会社」の筆頭株主は東京都であること、東京23区で組織する「特別区競馬組合」が競馬場を賃借し、「東京シティ競馬（大井競馬）」を開催していること一など今回初めて学んだ。

かつては東京都も競馬を主催していたのだから、東京都知事的美濃部知事（1967－1979在任）が都営のギャンブルの全廃を宣言し、東京都は競馬の運営から退いた。しかしながら上記のように東京都は今日でも「東京都競馬株式会社」の筆頭株主であり、競馬事業などからの配当金により毎年多くの利益を得ているのだ。大井競馬場の令和2年度（2020年度）の勝ち馬投票券売上高は1728億円で、過去最高額を達成し、その中から東京23特別区に1区あたり5億円が分配されることが決定しているという。

特別区競馬組合は、「健全な娯楽の提供」を掲げており、“快適な施設環境の下で知的な推理や適度なスリルと興奮が味わえるレジャーを提供する”ことを理念としている。今回のメガイルミの開催も、大井競馬場の（非開催日の）有効活動や認知度のアップ、環境にやさしい競馬場づくりの一環だ。

しかしながら年間5億円（令和2年度の実績）が各区に配分されているとは！大井競馬場のレース馬の皆さん、競馬場で働く23区の職員のみなさま、お金を賭けてくださる競馬ファンの皆様、調教師のみなさま、馬主の皆様、他関係者のみなさま。ご苦労様です。今後ともよろしくお願いいたします。

「健全な公共ギャンブルの在り方」という深い命題について考えさせられた貴重な一日となった。（了）

令和3年12月16日

環境記者 三森八重子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月21日

聖蹟公園花壇花植え替え

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月23日

2021年12月21日（火）聖蹟公園の花壇の花が枯れましたので植え替えを行いました。

今週に入り気温が一段と下がり、寒い冬らしい環境になってきました。今回は当社（東京サラヤ）八王子出張所の方が、生物多様性とコミュニケーションの活動を兼ねて花苗の植え替えを行いました。なお、当社はボランティア活動名「品川フラワーレンジャー」で社内有志を募り、「しながわみどりと花のボランティア活動」に参加しております。



花苗を植替える前に雑草や枯れた草花を取り除き、土を耕し柔らかくして植替え作業が楽に進められるよう準備をいたしました。



花苗植替えの様子です。



花の配置として花壇奥に大きめのハボタンを植え、花壇手前にスミレなど小さな花を配置しました。

私たちだけですと花屋さん違って植えるのに馴れていないため若干遅い分、花屋さんが手伝ってくれて助かりました。

花苗植替え完了



花壇周囲を清掃しながら後片付けをして記念撮影をしました。お疲れ様でした。



(写真左) 植替え指導：関生花店店主と関様

令和3年12月22日

環境記者 小野文義

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2021年12月23日

早春のしながわ区民公園

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年01月17日

1月6日（木）東京都心の気温は朝－1℃、正午でも3℃ と今季一番の寒さ。

降りだした雪は夕方には10 cmほどの積雪に・・・

翌日には大通りの雪は消えましたが、路地裏などは数日路面が凍結していました。

しながわ水族館の雪景色



1月6日（木）16時頃撮影



1月7日（金）9時頃撮影

数日後の9日（日）は朝から晴天で風もなく、穏やか（気温13℃）な散歩日和。

園内の北側ゾーンは改修工事中（令和3年12月～令和5年2月）なので、南側のしながわ水族館周辺の散策です。

水族館への道沿いの花壇も春を待っています。



日陰になっている土手には雪が残っていました。





青空に映える黄色の蠟梅（ロウバイ）は芳しい香りで、一足早い春を感じます。
園内の梅林に数本あります。見頃ですよ！



枯れ草の中に埋もれている色づいた「イソギク」が目を引きしました。



「芝桜」もちらほら顔を出しています。



令和4 年1 月9 日

環境記者 真壁美枝子

カテゴリ : 令和3年度

投稿日 : 2022年01月17日

私の散歩道 ～新春・お宝編～

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年01月27日

新しい年が始まって早いもので、来週には2月がやってきます。東京は寒さが厳しいとはいえ、快晴の青空に太陽の暖かさを感じる日もあります。そんな新春の散歩道で見つけた「春近し」のお宝を揃えてみました。ご笑覧ください。



二段目右端の一枚は、オレンジ色の部分が膨らみかけた「くちなしの実」です。

荏原神社の寒緋桜と天王洲アイルボードウォークの河津桜は、1週間で蕾が大きく膨らんでいました。そして、最後は品川の空の芸術（120度パノラマ撮影）です。



令和4年1月24日
環境記者 小滝静子

カテゴリ: 令和3年度

投稿日: 2022年01月27日

品川区社会福祉協議会で環境講座を開催

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年02月01日

令和4年1月19日（水）品川区社会福祉協議会で「環境にやさしい暮らし方」と題して講習会を行いました。
なお本講座の開催については、品川区の広報誌「品川いきいきガイド」（年間約5000部発行）に掲載されました。
※新型コロナウイルス感染症の影響で、予定の半分の人数で開催

■講師

環境記者 柿森麻衣子、同 小野文義（両者とも東京サラヤ㈱所属）

■講座内容

- 1）環境に配慮して作られたサラヤのキッチンハンドソープを使って手作り石けんを作る体験
- 2）SDGs、エシカル消費とは何かについて講習
- 3）普段の生活の中でできるSDGsやエシカル消費行動などについて参加者と意見交換



講座の内容を説明後、早速手作り石けん前半開始。



今回は密を避けるため参加者は作らず、飾り付けだけを体験しました。



後半はSDGs、エシカル消費とは何か、また生活の中で何ができるのかについての講義。
人数が少なかったため、たくさんの質問を頂き活気あふれる意見交換になりました。
無事終了、講座は好評で皆さん満足していただけたようで、ほっといたしました。

令和4年1月27日
環境記者 小野文義

カテゴリ: 令和3年度

投稿日: 2022年02月01日

早春を歩いて・・・

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年02月17日

2月も半ばを過ぎましたのに南岸低気圧のいたずらでしょうか・・・？ 23区内にも大雪警報が出たり、朝晩の気温もまだまだ真冬の寒さが続いております。少しずつ太陽の日ざしや輝きにも柔らかさが増して来た八潮団地内を歩いてみました。気温の低下に伴う冷えや寒さや乾燥で、私達にも起こる「しもやけ」「あかぎれ」等の肌荒れと同じように、植物にも「葉焼け」が起こっていました。



梅の開花が今年は遅れていると言われていましたので、ほころんでいる姿を探して歩きました。どんなに寒くとも開花の時期を覚えているのでしょうか・・・？ 苔が覆っている古木の先の枝が青空に伸び、細い枝先に蕾がいっぱい付いているではありませんか。歳を重ねても花を咲かせてくれるその姿に感銘を受けました。「黄梅」も「紅梅」も探すことが出来ました。



緑道公園へ歩いて行くと、枯葉や枯れ草で覆われていた樹木の根っこの周りに可愛い雑草が生えだし、これから根元を緑の絨毯にしてくれることでしょう。

垂れ柳の枝もわずかに青味を帯び、青空に映えながら北風に遊ばれていました。



京浜運河の土手には北風にさらされ、夕べの冷たい雨にも耐えた菜の花が凛として咲き誇っていました。これも春の風物詩でしょう。勇気を貰った気がしました。野鳥も花の中を歩き回り、餌を探し食べていましたよ。運河の水面はキラキラ輝き、水鳥が鳴きながら弧を描いて泳ぎ、透き通った水の中に餌を探したのでしょうか？潜っては魚をついばんでいる様子も見ることが出来ました。



エンジンの音を響かせながら釣り船が帰って来て、護岸にも大きな波の飛沫が押し寄せていました。普段は遊歩道近くまで運河の水がいっぱいですが、ちょうど干潮で水がひいていて、岩についている緑の藻を見ることが出来ました。この藻も東京湾からやってくる魚たちの餌なののでしょうか・・・？桜の蕾はまだまだかたく、松葉の先に花が・・・「松ぼっくり」が出来るのかなぁ？「雪やなぎ」も緑の可愛い蕾をいっぱい付けていました。まだまだ寒さが続く日々ですが、自然のいとなみの中に春の足音が聞こえて来るよう

でした。



八潮団地のそばの都立公園の素晴らしい環境の中で暮らせるこの幸せをしみじみ感じました。これから四季おりおりの素敵な姿を探し、歩きたいと思っています。

夕日が西に傾き始めた頃、ベンチに腰掛け、飛行機やモノレールを眺め旅の夢を抱きながら、鳥の鳴く声を聴いている時、八潮団地のそばの都立公園の素晴らしい環境の中で暮らせるこの幸せをしみじみ感じました。これからも四季おりおりの素敵な姿を探し、歩きたいと思っています。

令和4年2月16日
環境記者 石田雅子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年02月17日

私の散歩道 ～寒緋桜2022編～

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年02月22日

前回の新春・お宝編で荏原神社の寒緋桜咲き始めをご覧いただきましたが、その後順調に花が開いています。昨年は2週間に一度の記録を掲載しましたが、今年は1月末から毎週月曜日に訪れる機会に恵まれました。今年の寒緋桜をお楽しみください。

2022年1月31日（月）昼



2月7日（月）昼



2月14日（月）昼・・・寒波到来大雪予報の翌日



2月18日（金）夕方



2月21日（昼）



<番外編>

天王洲アイランドウォークの河津桜も2月9日に2,3輪開花、21日には4分咲き。

立会川では、アオサギ先生（下写真、右から2枚目右端の○印）の野鳥たちの学校が開校していました。

荏原神社ではメジロを発見。NHKラジオ日曜の朝の番組（2月20日）でメジロの話をしていました。メジロの舌は筆のようになっていて花の蜜を含ませるのだそうです。大きさは約11cm、重さは約10gで1円玉10枚の重さ！！

そして、最後は空の芸術作品二点です。





＜参考サイト＞

メジロの情報を確認したサイト

<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/1500.html>

<http://ind5blue.matrix.jp/Wild-bird/40/index1.html>

令和4年2月21日

環境記者 小滝静子

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年02月22日

第41回環境記者情報交換会

カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2022年03月09日

（１）最後の環境記者情報交換会

令和4年2月24日(木)、第41回環境記者情報交換会が開催されました。今年3月末をもちまして環境情報活動センターが業務を終了することになりましたので、今回が最後の情報交換会となりました。ご出席の9名の環境記者の方々に、これまでに投稿していただいた記事について、また記者活動を通して感じたこと、さらに環境保全に対する思いを語っていただきました。



中西さんは、2006年に環境記者に登録していただきました。品川の海の汚染に関連する「ガラスの破片のシェードランプ」という記事が印象的です。海や海岸に捨てられたビンが割れ、海岸に散らばり危険物となった破片を拾い集めてランプを作ったという記事です。また「ハクビシンの夜の散歩」と題した記事で、ハクビシンが夜中に電線上を移動する写真には驚きでした。

＊「ガラスの破片のシェードランプ」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=34>

＊「ハクビシンの夜の散歩」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=476>

真壁さんは、2008年に環境記者に登録されてからずっと、「花交差点の仲間たち」というボランティアグループで行われる近隣の歩道の清掃と花壇の整備を行う活動の記事を投稿してくださいました。14年！長きにわたり継続するのはたいへんなことです。また、この活動により「しながわ環境大賞」を受賞されました。

ご自身はこの14年の記者活動を振り返ってみて、約80件も記事を投稿していることに驚かれたとのことでした。

＊「『花交差点の仲間たち』歩道花壇の植替え」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5144>

小野さんは、東京サラヤ株式会社の方で2009年からの参加です。社員の有志のみなさんと年数回、「品川フラワーレンジャー」として聖蹟公園花壇で清掃、整備、花植替えなどの活動をしていらっしゃいます。それが10年以上も続いていて、投稿記事からも有志のみなさんの団結ぶりが伝わってきます。真壁記者と同じく、「しながわ環境大賞」を受賞なさっています。当センターの環境学習講座「LEDの行灯（あんどん）を作りましょう」の講師もお願いしました。環境問題に活発に取り組んでいらっしゃいます。

＊「聖蹟公園花壇花植え」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5236>

＊ 環境学習講座「LEDの行灯（あんどん）を作りましょう」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/kouza/?p=3028>

柿森さんは、小野さんと同じ東京サラヤ株式会社の方で、昨年4月に記者登録をしていただきました。「環境にやさしい暮らし方」と題したSDGsや、エシカル消費行動についての講師もなさっています。今年1月19日行われた講習会はコロナ禍の中、受講者の集まりを懸念されていたにもかかわらず盛況だったそうです。

＊「品川区社会福祉協議会で環境講座を開催」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5289>

新居崎さんは、2010年からの参加です。お仕事が行政書士、そして西中延3丁目町会の町会長でもあります。また今年度は品川区第四地区の美化事業の担当もされているそうで、この1年は地区3か所の公園の整備、ゴミ拾いなどに月に1度の活動に力をそそがれたそうです。

また環境活動推進会議（区民・事業者・区など、社会を構成するすべての人々が協働して、環境問題に取り組むた

めの団体)の委員になられたのですが、コロナ禍もあり残念ながら会議は今期まだ3回(*)ということです。

(*)事務局より・・・2月24日現在(年間4回の予定で、3月中に開催予定)

また、町会の資源回収事業で「しながわ環境大賞」を受賞されています。

以前お話をいただいた福島県会津郡田島町のきのこ栽培や野菜の有機栽培については原発事故のあと、風評で今なお何を作っても売れなくて、続けるかどうかは思案中だそうです。

林さんは、2012年にご登録いただきました。千葉県袖ケ浦市で太陽光発電の事業をやっておられます。2019年9月の台風15号の大停電の様子を緊急レポートとして投稿してくださいました。2020年には地球温暖化についての環境学習講座の講師を「地球温暖化防止コミュニケーター」としてお願いしました。

また最近の興味は「ブルーカーボン」だそうです。ブルーカーボンとは、海洋の生態系(マングローブや海藻・海草など)によって大気中から海中へ吸収、貯蔵される炭素のことだそうです。それを学んで、少しでも何かできることはないかと考えていらっしゃるそうです。

*「【緊急レポート】台風15号と停電対応」2019.9

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4271>

*環境学習講座「地球温暖化と気候危機時代を諦めない」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/kouza/?p=4910>

石田さんは、2013年からのご参加で、「品川区の地球にやさしいお店」の取材をお願いしたのが始まりでした。その後、八潮団地のまわりの四季の移り変わりなど普段見逃してしまいそうなことを丁寧に記事にしてくださいています。そのような記事を書いていて環境問題が、より身近に、より興味深く感じるようになったそうです。

*「早春を歩いて・・・」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5308>

小滝さんは、2014年に記者登録をしていただきました。登録して2年ほどで八潮に引っ越しをいらして八潮の自然を「私の散歩道」シリーズとして投稿してくださいました。また、環境講座にも受講者として参加していただきました。記事を投稿するようになって、草花、樹木、虫など、日常目にしているあたりまえのことなどを細部まで見たり、詳しく調べたりするようになり勉強になったとのこと。私も担当者も勉強させていただきました。

*「私の散歩道～新春・お宝編～」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=4874>など

三森さんは、環境記者に登録されてちょうど1年、情報交換会の参加は2021年4月に次いで2度目です。昨年(2020年)の11月と12月の2か月間で投稿された4件の記事を紹介していただきました。

担当者としては、もっともっと長く記者でいてほしかったと思いました。

*「アートのある街、天王洲アイルでバンクシーの謎に迫る―展覧会訪問記―」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5132>

*「庶民の街、中延商店街が生み出す『幻のはちみつ』＝中延日本蜜蜂保存会＝」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5150>

*「キューガーデンのボタンカルアートと、アール・デコ様式の装飾を愛でる」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5193>

*「『東京メガイルミ』～大井競馬場イルミネーション～＝しながわ区民デーに参加」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5214>

ご出席いただきました記者の皆さまから、「楽しく参加させていただいた」「ほかの記者の方との貴重なつながりができた」「これが最後の会かと思うと残念だ」「同窓会ができたら良い」、また逆に「お世話になった」など、担当者として非常にうれしいお声を聞くことができました。

最後に皆さまの今後のご活躍を、そして引き続き環境問題に取り組んでいかれることを願い閉会とさせていただきます。

今回はやむなくご出席いただけなかった岑山さんから、以下の記事をご投稿いただきました。

*「子供用品無料交換会『おさがり屋さん』」

<https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?p=5158>

ここに紹介できなかった記事は環境情報活動センターのホームページでご覧になれます。

令和3年度 <https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?cat=24>

令和2年度 <https://shinagawa-eco.jp/wp/reporter/?cat=23>

（２）環境記者レポートおよび情報交換会を振り返って

環境記者制度は平成17年の環境情報活動センター開設の翌年にスタートしました。

この制度には62名の方が記者登録をしてくださり、様々な記事を投稿していただき、また情報交換会にご出席いただきました。

【投稿記事の例】

- ・ 季節の草花紹介 ・ 桜の開花や紅葉の情報 ・ ごみ拾いや公園などでの美化活動
- ・ エコロジー生活の紹介 ・ 商店街での打ち水や区民農園での収穫風景の紹介
- ・ ボランティアで花壇での花の植え替え作業 ・ 環境イベントへの参加報告
- ・ 台風時の停電の際に太陽光発電（蓄電）でご近所に電気を供給して感謝された など

記事総数は830記事にのぼりました。

情報交換会は41回を数え、記者のみなさんの環境活動についての情報共有をすることができました。

記者の皆様には心から御礼を申し上げたいと存じます。

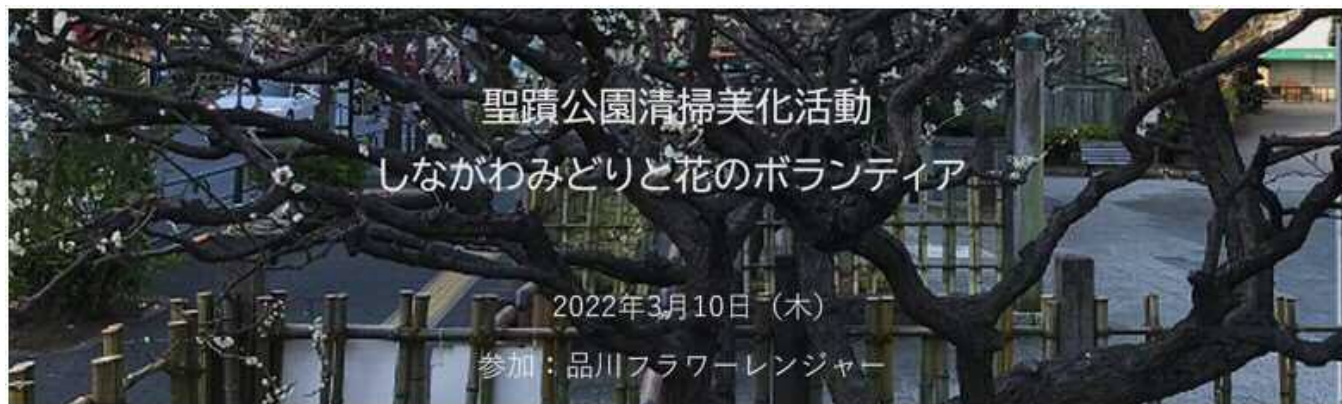
カテゴリ：◆情報交換会

投稿日：2022年03月09日

聖蹟公園清掃美化活動

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年03月22日



2022年3月10日（木）8:30 聖蹟公園の清掃を行いました。

公園の梅の花が綺麗に咲いていました。

朝陽がビルに遮られ公園全体が暗くなっていますが天気は晴れ。去年12月に植え替えた花が今満開です。



下の写真は去年12月に植え替えた時のもの。



園内遊具（ブランコ）に口紅のついたたばこの吸い殻があり、残念な気持ちになりました。



遊具の目視点検も終わり、清掃を終了しました。お疲れ様でした。

■感想

かなり久しぶりに聖蹟公園清掃美化活動に参加しましたが、前に参加した時よりゴミも少なくキレイになっており、長年継続してきた活動により改善されてきたのだと実感しました。

朝の短い時間でしたが清掃することにより、また、満開の花壇や白梅・紅梅も目に留まり、清々しい気持ちになりました！

令和4年3月10日

環境記者 小野文義

カテゴリ：令和3年度

投稿日：2022年03月22日